

令和6年度第1回 川崎市観光振興計画推進委員会 会議録

- 1 開催日時：令和7年3月28日（金）15時00分～16時50分
- 2 開催場所：川崎市役所本庁舎9階経済労働局会議室
- 3 出席者：委員 松本委員、穴戸委員、青木委員、若井委員、萩原委員
事務局 森担当課長、池田担当課長、中村担当係長、浅沼担当係長、水口職員、坂野職員、渡邊職員、福井職員
- 4 議 事：(1)「新・かわさき観光振興プラン」の進捗状況の確認等について
(2)観光振興計画推進委員会検討部会での検討状況について
- 5 傍 聴 者：0人
- 6 会議内容

森担当課長

本日は、お忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、「令和6年度 川崎市観光振興計画推進委員会」の開催に先立ちまして、事務局から事務連絡をさせていただきます。

まず、議事に入る前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

資料の下の中央にページ番号を附番しておりまして、1ページから45ページまでの資料となっております。皆様、不足はございませんでしょうか。

続きまして、本会議は、半数以上が出席しなければ、会議を開くことができないとされておりますが、事前に欠席のご連絡をいただいた方もおられましたが、本日は5名の方に御出席をいただいております。委員数8名の半数以上となることから、会議が成立していることを御報告いたします。

また、本会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき、公開の会議となります。本日の会議の議事録につきましては、後日、事務局から確認のお願いをさせていただきますので、あらかじめよろしくお願いいたします。

事務連絡は以上でございます。

それでは以降の議事について、会長、進行をよろしくお願いいたします。

松本会長

それでは、次第に沿いまして、進行いたします。議事1の『「新・かわさき観光振興プラン」の進捗状況の確認等について』、事務局から説明をお願いします。

事務局担当職員

－（略）資料説明－

松本会長

ありがとうございました。ただいまの事務局の説明について、御質問や御意見がございましたら、挙手をお願いいたします。

穴戸委員

基本的なことですが、最初の資料2ページ目のデータは暦年・年度のどちらでしょうか。例えば、その他KPI値では3月20日までのデータになっているものもあります。

事務局担当職員

わかりにくくて申し訳ございません。表の上段は暦年、中段が年度の4月1日から3月31日まで、下段は暦年でございます。

松本会長

よろしいですか。

央戸委員

入込観光客について市と県の記載がありまして、令和6年は前年から増えています。一番多かったのは平成30年のおよそ1,600万人です。これとは逆に、宿泊総数は増えていますよね。外国人の宿泊客数も増えています。昨年も聞いた気がします。結局サンプルになっている施設が適正かどうかというのはどうでしょうか。

事務局担当職員

入込観光客数調査の対象施設については、本市も加盟する神奈川県観光振興対策協議会という組織で基準を設けており、本市もそれに準じて調査をしています。

本市の調査対象施設はホームページで公開しておりまして、日本民家園や農業技術支援センターなど、一般的に人が訪れる施設を対象としてございます。また、調査対象ではあるものの施設名を非公開とする施設につきましても、非公開施設として合計値に計上しております。

本市の入込観光客数と、神奈川県が公開する本市の入込観光客数が併記されている理由ですが、本市が観光振興プランで指標を定めた後に、神奈川県観光振興対策協議会で調査対象施設の基準の変更が行われたため、観光振興プランとして入込観光客数の評価を行うために旧基準での数値に基づくものを市の数字、新たな基準に基づく数字を県の数字として併記しているところでございます。

それぞれの施設の調査が本市の観光の実状を表しているかどうかという点については、我々も必ずしもこれが本市の観光政策の全てを反映できている数字ではないという風を感じているところですが、当時指標として設定したものを同様の基準でモニタリングしていく必要があろうかという点で本会議において評価をお願いしているところでございます。また、コロナ前後で落ち込んでいる理由といたしましては、コロナを機に来訪の頻度がぐっと減ってしまう大きな施設がございまして、非公開施設ですので名前は申し上げられないのですが、コロナを機に生活が変容してしまったため、なかなか回復しないという風に伺っているところです。あまりに特定の施設に依存してしまう数値という面もございますので、このあたりについては今日の議題にもございますが、今後の観光プラン等を考えるときにも、どういったモニタリングの仕方があるのかを合わせて考えていくことになろうかと考えております。以上です。

央戸委員

ありがとうございます。まさにおっしゃった通りだと思っていまして、結果的に宿泊客数などの数値は上がっていますし、都市観光という観点でいくと、従来型の観光施設でのカウントではないということですね。

公開されている数字のように、例えば藤子Fミュージアムとかは結構人気ですが、主要なところの数がどうなっているのかとか、あとは実際に今の施設で極端に減ってしまっ

ているという影響も受けているとは思いますが、全体の傾向がどうなのかというのは、今後もう少しデータとして見ていく必要があると思いますので、今ここで数字をみたいということではないんですけれども、少し考えているところではありました。

多分、藤子F不二雄ミュージアムとか岡本太郎美術館とか、ある程度象徴的な観光スポットというところでは、来訪者数は観光動向をかなり反映すると思います。そういうところは数字も戻ってきていたりすれば、かなり増えていくと思います。今後もそういう点を考えていくとより現実に即しているのかなと思い、質問させていただきました。

松本会長

ありがとうございました。私も同じようなことを思っていました。ところで、この入込観光客数に、イベントの人数は入っているのでしょうか。

事務局担当職員

イベントは入っていない数字でございます。

松本会長

入っていないんですか。施設のものだけですね。わかりました。

それからひとつすみませんが、「2-その他 KPI 値」の注の3「令和4以降の外国語 HP は自動翻訳導入に伴い入口までの計測」とはどういう意味でしょうか。

事務局担当職員

はい。ありがとうございます。わかりにくく申し訳ございません。

KPI 値の1つ目につきましては、それぞれ観光協会のホームページのアクセス数が具体的には何人がアクセスしたのかというものです。令和4年度から自動翻訳を設けました。ホームページで language というボタンをクリックしますと、別の言語に変換するというものでございます。この押された時のトップページのカウント数を合計した数字となっております。そのため、本当に language タブから翻訳した人しか把握できないというところが1点課題ではあります。令和4年以前は、それぞれ英語用のページなどをご用意しておりましたが、自動翻訳を入れたことによって、同じ考え方でモニタリングができなくなってしまったという注でございます。

松本会長

意味が分かりました。

事務局担当職員

一方で、最近はブラウザーの方に翻訳機能がついているものがございますので、そちらまでは捕捉できないというところも課題ではございます。

松本会長

ありがとうございます。

央戸委員

単純に検索でウェブサイトから飛ぶ場合があると思いますが、それはカウントできないということでしょうか。

事務局担当職員

そちらについては、総アクセス数としてはカウントできるのですが、外国語ホームページとしてのカウントはできないというものでございます。

松本会長

他にいかがでしょうか。

萩原委員

パソコンで見るときには、language からいくかもしれないけれども、スマホで見るときにはスマホ側の言語を読み取って、表示するという風にはなっていないのでしょうか。うちのホームページだと、それを使っているのですが。

事務局担当職員

はっきりした回答が申し上げられず申し訳ないのですが、スマホ側でも language のボタンが表示されますので、自動で判別といった仕様にはなっていないことが見込まれます。

萩原委員

各取組のA～C評価についてですが、市役所のどこかが音頭とりをしていて、「次年度はこの項目については前これをやったから頑張ってもう少しやってくださいね」みたいなことを、どこかがコントロールをしてくださっているのか。ただ何となく「今年は東海道川崎宿100周年だよ、ということでやってくれた」とするだけの評価では、たまたまそのイベントが終わると、のちの評価が下がるみたいなものの連続に見えるので、経済労働局さんとかどこかはわからないのですが、コントロールして、「去年ここが弱かったから次はこういう展開ができるのではないか」みたいな形なののでしょうか。

観光協会がやるのか、ホテルのどこかの集まりがやるのか、どこに声をかけるのか、といった音頭取りの部分があれば、年を追ってもっと全体が上がってくるのかなと思います。

結果的に、Aだった、Bだった、Cだった、というのから、もう一歩進まないといけないかなと思いました。

事務局担当職員

おっしゃる通りだと思ってしまして、8割方の項目は我々観光地域活力推進部の取組が紐づくものではあるのですが、生田緑地をはじめとして、各局それぞれで観光プランに関する取組を行っておりますので、私どもから照会をかけて、取組状況だけでなく来年度の取組予定についての記載も求めているところです。それをきっかけに各局で意識をしてもらうという趣旨ではございますが、具体的な一件一件について、協議をするというところまでには至っておりませんので、そのあたりは我々も今後の観光プランの方でも横櫓を刺していくということも必要になるかと思えます。

萩原委員

ぜひリーダーシップを取っていただいて。

事務局担当職員

ありがとうございます。

松本会長

他にはいかがでしょうか。

若井委員

全体的にABCの評価が上がっているものは良かったので、素晴らしかったと思いま

す。お伺いしたかったのは、この中でも特にこれがすごく効果的だったとか、これが今旬ですとか、これ今川崎で熱いのではないか、知見でも大丈夫ですので、もしお伺いできたらと思います。

事務局担当職

はい、ありがとうございます。

我々観光の部署といたしまして、国内・産業観光をメインにしているラインと、インバウンドをメインにしているラインとがございますので、順番にご説明をさせていただければと思います。

国内・産業観光の方といたしましては、産業観光の中でも教育旅行の誘致というところをずっと取り組んでおります。ここ2～3年の間にターゲットを工業高校や高専に特化して教育プログラムを作りましょうと呼びかけをしております。

今までは企業様のCSRとしてどこでも見学を受け入れてくださっていたところもあったのですが、最近はその対応も難しいというところもあって、企業様とメリットのあるような形で、関係を構築していきましようということで、今後の人材確保に向けた取組として頑張っているところです。

加えて従来の教育旅行の誘致対象ですと、なかなか川崎にご宿泊までいただけるようなキャパの学校様がいらっしゃらないという課題もございました。高専とかになりますと1クラスということで、市内のホテルにもご宿泊いただけますし、ご飲食もいただけるというところです。こういった形で近年取組を変えまして、企業様や各地の旅行会社様からも非常に反応が良くなってきているというのを感じておりますので、ここは引き続き注力をしていきたいと思っております。

事務局担当職2

インバウンドの担当としましては、令和5年度から市と観光協会で訪日外国人向けのいわゆる体験ツアーを造成しているところでございます。最初の年度に川崎大師と川崎駅周辺の浮世絵ギャラリーや東海道グラスさんという切子作り体験ができるところを回るようなツアーを作りました。今年度はそれに加えてタクシーで工場夜景を回るプランや同じ川崎大師でも着付けの体験、とんとこ飴を切る体験、そういったものを造成して、今後プロモーションを強化して、販売を強めていこうと思っております。

並行して、令和6年度からは自らそういった体験ツアーを作って販売してガイドする、我々ではなく、市民の方を中心に語学力の高い、元々海外に駐在していた方や旅行会社に勤めていた方など、そういった方々をインバウンドビジネス実践講座という講座で養成させていただき、プレーヤーを増やしていこうと取り組んでいます。こちらも今年度14名の方が修了されまして、今後、市と観光協会と連携して、迎え入れるツアーを増やしていきたいと思っております。その中には当然、今までの市の観光施設もちろんですが、飲食店さんや商業施設さん、小売店さんなど、そういったものも組み込んで、より市に来ていただけるような、消費も高めていけるようなものを目指しているところでございます。

萩原委員

国際交流協会さんがやっている外国語のボランティアを増やす取組とか、どんどん一

緒に動いていけばいいなと思います。

例えば、商店街のようなところでも、インバウンドのお客さんが来てほしくないお店も中にはあるのかもしれないけれども、そんなに怖がるものではなく、割と簡単にできるよ、ということを色々な取組と告知が出来れば、全体的に外国の人が来て、「川崎面白いじゃん」という話になるといいなと思います。よろしくお願いいたします。

森担当課長

商店街ということでは、実践講座の中で、1人インドネシアの方がいらっしゃって、その方が国際交流協会の茶室での体験やブレーメン通りのお店を回らしようといったプランを考えていらっしゃいました。今後ご自身でOTAで販売されるので、そういったものを我々も一緒にプロモーションしていくという取組をしていこうと思っております。そういった街に出ていくような取組を増やしていこうと思っております。

その中には、渋谷から直接溝の口の西口商店街の昔ながらの居酒屋に連れていくということで、そこがまるで渋谷かのように連れてくるようなツアーなんかもあって、さまざまな案も出てまいりましたので、ぜひそういったものも、しっかり支援して、一緒に観光を盛り上げてくれるような市民の方、プレーヤーを増やしていきたいと思っております。

松本会長

実践講座はジェイノベーションズさんとの取組のことでしょうか。いかがでしたか。

森担当課長

おっしゃる通りです。思った以上に効果的だと思いました。15名の募集をしました。が、実際は40名近く応募があって、その7割から8割くらいが川崎市民でした。川崎の方で、こんなに語学力がある方がたくさんいらっしゃるのだと驚きました。川崎市以外の方も、元川崎市民で川崎に思い入れがある方が多かったです。今回はウェブ上でしか募集していなかったのですが、それなりに応募がございました。川崎市民155万人いて、周辺にも多数いらっしゃるの、そういった方はまだたくさんいらっしゃるのかなと思いました。これからまだまだ増えていくと思っています。

松本会長

それは良かったです。かなり実践的にうまくやってくれるのではないかと考えていました。効果があつたと考えていいですね。

森担当課長

次年度は、産業観光振興協議会ではなく市の予算で組み、観光協会と一緒にやっていくような事業組を考えております。

松本会長

それはいいですね。

萩原委員

ぜひ観光タクシーの方も支援をお願いいたします。すごくいいと思います。やはり海外の方もちやうど空いてる時間を見回るので、すごくいいことだと思います。

森担当課長

実際に、きたテラスにも結構お問合せもあるようです。川崎タクシー様側も4月以降に体制がしっかり確立されるようなので、一緒にやっていければと思っております。

松本会長

タクシーで思い出しましたが、川崎タクシーさんの夜景タクシーはふるさと納税も使えますね。それから今年屋形船クルーズも入りましたね。あれは、どのようなプランでしょうか。

森担当課長

屋形船に関しては数百来ているという話は伺いました。東京レストランでもクーポンのような形を使用しているので、相当数来ていると伺っています。

事務局担当職員

タクシーは、月に2～3本くらいのペースと伺っております。

森担当課長

体験型などは、ふるさと納税に入れて思ったよりも売れるのだと思いましたが、増やしていきたいなと思っています。

松本会長

ありがとうございました。

央戸委員

2ページのデータについてです。

修学旅行の誘致に力を入れているということですが、今日の説明にある5ページにある教育旅行誘致は、工業高校に注力して、宮崎、大分、福岡など、誘致活動や旅行会社回りに努力されていると思います。実際に数字だけを見ても、社会科見学は近隣の生徒さんや学校さんの数で増えていると思います。特に令和元年や平成30年に比べても、かなり増えていると思います。一方で修学旅行そのものは、平成30年や令和元年に比べると、伸び悩んでしまっていて、令和4年は近隣の観光や修学旅行とは違う事情があるかと思いながら見ていました。

実際の手ごたえ感としては、どうでしょうか。どこが戻っていないなど、具体的に内容として振り返りはありますか。

事務局担当職

こちらの数字についてですが、受入の生徒数や学校数をそれぞれ各施設様に統計的に回答を依頼しておりまして、市観光協会を介さずに直接各企業に申し込みをされたケースも含んだ数字となっております。

市観光協会さんと一緒に工業高校と高専を誘致ターゲットとしたのは、令和4年度になります。ちょうど昨年、少しずつ誘致した県から何件か工業高校が来ております。2年間経ち、まだトータルで20件もいかない数になります。まだまだターゲットを切り替えてからの成果としては見えていないところです。ターゲットとした学校と、ターゲットとしていない学校について、切り分けてカウントしていかなければならないと思っているところです。

央戸委員

もしかして、受け入れ側があまり積極的ではないのではないか。コロナ前はいっぱいあったと思いますが、コロナ禍でかなり人を減らしたりなどがあると思いますが、その辺はどうですか。結果的に、旅行会社が交渉しても受け入れられない、事務所さん自体が受け入れることに消極的だと、当然数が増えないと思いますが。いかがですか。

事務局担当職員

各企業様に伺うと、コロナ以降、非常に消極的になっているというところがございます。従来の教育旅行の受入についてご相談をしても、なかなか受け入れていただけないというところがありまして、企業様にメリットのある形はどこかということ伺って、工業高校等にターゲットを変更したという経過がございます。

企業様へのご負担になってしまうようでは、我々がいくら教育旅行に来てくださいと言っても、難しいものではございますので、ご指摘の点がネックになっているように、私たちも感じてはいるところです。

森担当課長

ほかに減っている理由としては、受け入れる施設として東芝未来科学さんや JFE さんなど、大規模で受け入れていた施設が閉鎖してしまったという要素も若干あるかとも思います。最終的には市の工場で働いてもらえるような学生に来ていただくといった形が良いのではないかと、今考えているところです。

松本会長

他にはいかがでしょうか。

青木委員

事務局のご努力に感謝をしています。ますます我々の役割を強めていかないといけないと感じていまして、これから新年度に向けて、インバウンド向けの予算をかなり増やしていただいたので、それに対応できるような内部環境を整えていくため、職員を採用して、市の期待に応えられるようにしていきたいと思います。

実は先週も神奈川県観光協会の理事会に行きましたが、県がかなりインバウンドに力を入れて、国から予算をもってきたり、県から職員を派遣したり、受入態勢を整備されていると感じました。川崎としても、県と競争するわけではなく、川崎なりに地道に内容を充実していくことが必要だと思いました。

央戸委員

もう一度、教育旅行の件に戻りますが、この中に訪日教育旅行というのは、ケースとしてありますか。海外の学校からの生徒さんを受け入れた実績とかはありますか。

森担当課長

コロナ前は、市の方でオーダーを受けとめて、学校交流も含めたコーディネートをしていたこともありましたが、現状は問い合わせもなく、なかなか学校側の受け入れも難しく、市の方でコーディネートしていることは無いです。直接申し込みというところはあるかもしれませんが。

央戸委員

6年間くらい教育旅行の研究をしていたので伺いました。インバウンドの誘致は、いきなりマスターゲットを進めることは難しいので、教育旅行から入っていく、小さいことですが保護者の方を呼んでくるというものが結構あります。中国とか海外の人は日本の精神的なものを学びたいというニーズがあり、給食体験や日本の掃除が見たいということもあります。

環境問題やSDGsは、世界的なトレンドでもありますし、中国などの諸国から見たときに、川崎の公害対策などのコンテンツもあると思います。しかし、どうやって認知してもらおうかというのは、なかなか難しいと思います。JNTOの商談会などで海外に行き、個別に市の職員がネットワークなどを作ったりしています。静岡の観光協会で受入をしていて、訪日教育旅行誘致のネットワークの中に入ってみると「川崎もいいところだよ」とプッシュしていけば、これからももう少し増やせる場所もあると思いますので、注力していただけると良いと思っております。

森担当課長

以前、訪日教育旅行の調整をしていた者からは、訪日の場合には必ず学校交流やホームステイがあり、そこに加えて施設見学という行程とがありました。

これを全部一人の職員が調整すると、それだけでとても時間がかかっていますので、もう少し仕組みを考えていければ、そういった方向性にも取り組んでいけるのかと思います。現状は、なかなか手をつけられていないという状況ではありますが、きっと需要はあるのだろーと思っております。

央戸委員

あとは、海外の学校さんも毎日学校交流をしているわけではないので、例えば北海道で受け入れるなどのローカルな地域だと、そこで全て完結しないといけないと思いますが、色々な地域で取り組んでいるので、川崎で半日通過していくといいなと思います。旅行会社さんや受け入れた側の川崎よりも進んでいる経験力の高いコーディネーターの方もいらっしゃるの、そこも繋がっていくと、川崎で学校交流をやらなくても、川崎の魅力を海外の皆さんに見てもらいたい、といった形での営業もできると思います。

萩原委員

法政二中高にも関わっていますが、学校がどこかの海外の学校から呼んで、集団で泊まりに来て交流するというのを聞いたことがあります。結構有名な学校が川崎市内にありますので、どこかの学校と友好関係を結んでいて、お互いに行ったり来たりをしていたり、部活の有名なところで、例えば吹奏楽などでは聞いたことがあるので、それも一つ対象かもしれないですね。

森担当課長

市立橋高校さんや市立川崎中学校、洗足学園などは、実際に調整したことがございました。そういう可能性はあるのかなと思います。

若井委員

関係ないことですが、この間少し時間があって、この庁舎の一番上に行ったんですが、すごく良くないですか。めちゃくちゃいいところですね。観光資源にならないか

なと思いました。あそこで初日の出を見たら良いことがあるとか、少し昔だと恋人の聖地みたいなものが流行ったと思います。一度取材に来てもらったりすると、定着してもおかしくないぐらい関東平野が一望できて素敵だなと思っていたら、同僚の人も同じことを言っていました。

萩原委員

何かスポットを作っても良いかもしれないです。幸せの鐘など。

央戸委員

佐賀県庁や香川県庁はプロジェクションマッピングにして、無料で限定的にやって、お客さんも来ていました。イベントとコラボをするといいかもしれないです。

萩原委員

展望台のガイドができる人を何人か。久寿餅を食べながらとかいいですね。

松本会長

まさに灯台下暗しです。観光振興がすぐそこにあったということですね。いかがでしょうか。他にはなにかございますか？

私が見ていまして、総合的な評価を見ていると、戦略8と戦略12の数値が悪いですね。戦略12の川崎観光推進対策の確立は、前から気になっていました。計画を立てたときに、全体の観光推進をどうしていくというのが曖昧になっていたと思います。

当時は商業観光課がまずプレーヤーだということがあったり、あるいは観光協会が責任をもってやるということがあったり、とてもうまくなかったですね。そうしたところを、今後どうやっていけば良いのか、全体の調整をもう少ししなければいけないと思います。これは次期に向けての課題になるのではないかと思います。

森担当課長

後ほど、観光振興計画の基本的な考え方の議題がございまして、少しご説明をさせていただくところですが、既存の計画で、何が課題で、どこが出来ていなかったのかというところの一つとして、そこもございまして、その課題に合わせて、今後こういった方向でやっていこうところを考えています。

今回できなかったところは、次期にしっかりやれるようにしていきたいと思います。

松本会長

ぜひそのことをお願いしていきたいなと思っております。

央戸委員

最後にもう一つだけいいですか。

今まさにおっしゃった戦略の7、8、12は、毎年数字が低く出ていると思います。また、出てきた評価について、Aで達成できていると考えるのか、着手して着手率があるのか、なかなかわかりにくいところがあると思います。着手をして成果が上がったのか、着手をしたけれどそれほど成果がなかったのか、少なくともAはもう少し分かれてくるような気がします。評価方法については現在の計画期間中なので、なかなか大きく変えることは難しいのですが、今度のプランが出来たときは、少し評価の仕方が強化された案になってくるかと思うので、この評価をしていくことによって、具体的になるか

と思っています。現状は実際に細かいところまでどうかという分析に少し繋がっていないような気がします。多分、去年も課題になっていると思いますし、現行ですぐに変えられないような気もするので、いくつか合わせて今後もお願いします。

森担当課長

新しい計画は宍戸部会長のもと、取り組んでいます。今の計画では168項目のマイクromanagementということでこれも良いのですが、一方で分かりづらいところもあります。細かすぎて、市民・事業者様に伝わっていないところもありますので、次はもう少し方向性という形で、取り組みを細かくしない形でやっていきたいなと思っています。評価について変えていくところは、考えていきたいなと思っています。

萩原委員

入込数のところに、イベントが入っていないというのが、結構致命的だと思います。川崎市制100周年の目玉の全国都市緑化かわさきフェアは全国からいらしてははずです。それが一切カウントに入っていないくて、3会場に多くの人移動して集まったはずですが、入っていないというのは少し残念です。大きい目玉の時には、それを観光客として意識するような立場になった方が良いのではないかと思います。せっかくのチャンスだと思います。

松本会長

次期に向けての課題ということですね。

森担当課長

どういった指標にしていくか、やはり入込観光客数や宿泊者数は上がってきましたが、コロナを含めて、社会的な影響を受けてしまったということもあるので、私たちと皆様が取り組んでいるそれぞれのものが、数字として反映される場所まではみえてこないで、その辺をどのような指標にしていけばよいのか、しっかり考えていきたいと思っています。

一方で、数字としては必要なものなので、取り続けていく必要があるかなと思っています。今後の観光振興計画の定量的な目標にするかどうかということは、しっかり考えていきたいと思っています。

松本会長

他にございますでしょうか。引き続き、次の議題に入ってもよろしいでしょうか。

それでは今後の問題でございます。観光振興計画推進委員会の検討部会での検討状況について、まずご説明をお願いしたいと思います。

事務局担当職

－（略）資料説明－

松本会長

これをベースに取組を考えていくということで大変参考になりました。ありがとうございました。

今一通りお聞きしましたが、宍戸委員と萩原委員がこの部会をやっていただいておりますので、まずご意見を先にお伺いしてもよろしいでしょうか。

中央委員

では私から一言だけ。前回のように、コンサルが入って作っていくというよりは、市の方が努力されていると思いました。今回、地元で活躍されている方も含め、インバウンドや都市計画などに関わるような適材適所の方々が集まられたような気がします。かなり熱心に議論をされていて、直感的な部分もあると思いますが、充実した議論だと思いました。いつも2時間で収まらず延長戦になっているので、それもまた非常に良い議論だと思っています。

最後にこれからですが、先ほども出てきた誰が推進するのか。150万人都市としても観光のポテンシャルもあるので、そこが肝かなと思います。そこはかなり注力し、かつ具体的なことを打ち出せていけたら良いのかなと個人的には思っています。まだ皆さんとの話し合いが十分にできていないので、私は今後の課題かなと思っております。

萩原委員

まずは、ビジョンとターゲットをどうするかというのは、色々な議論がありました。やはりわかりやすく、言葉で引っかかかってしまうと戻ってこないの、どう伝えるかというところ。問題はそこから先に具体的にどうしていけるかという仕組み作りやどのような人たちを巻き込んで、誰が主体となって、どこが音頭とりをやり、より観光を振興していけるのかという具体的なことについて、これから先、大変だと思います。

大枠のビジョンとターゲットから外れることなく、それを推進するためには、ということがはっきりしていれば、この先できる限りのことを皆さんで議論しながら、市民なのか、その前に議会なのか、どこかにうたって、それを実現していくことができれば、礎の一步かなと思っています。穴戸先生がおっしゃった通り、本当に皆さん熱く、これだけ川崎のことを一生懸命応援する、取り組もうとしている方たちがいるんだと心強いです。

先日の市政100周年の際も、イベントでフォーラムをやった際には、たくさんの方々が観光のフォーラムに来るんだと関心呼びました。川崎は捨てたもんじゃないなと、これから伸びるのではないかなと思いました。よろしくお願いいたします。

松本会長

ありがとうございます。検討スケジュールを見ますと、9月までにはフェーズ1の案ができていくということでしょうか。

事務局担当職員

おっしゃる通りでございます。

松本会長

本年11月ごろにパブリックコメント・公開ということですね。ビジョンがあつて、ターゲットを定め、それを推進する体制を作るためには、それなりの方策を作ることが必要になると思いますが、取組とは具体的にどういう方策を取るかということですね。

事務局担当職員

おっしゃる通りです。

松本会長

具体的な取組というのは、今どういうことが考えられますか。

事務局担当職員

前回の会議で、案という形で8つくらいの項目をお示ししました。大きな取り組みの方向性みたいなレベル感のものです。

案1が意欲ある市民事業者が繋がる機会の創出ということで、そういったプレーヤーたちのネットワークみたいなところをイメージしております。

案2といたしまして、市民事業者のチャレンジを後押しする組織体制の整備というところで、先ほど松本会長からご発言もいただいたような、推進体制をどうするかというところです。

案3といたしまして、川崎の人・まちが持つ魅力を届けるというところです。地元の人が交流するお店やローカルのイベントなどを発信していくという、いわゆる大規模イベントではなく、ありのままのものをお届けしようというものです。

案4としては、羽田や都心から川崎に誘客する、ホテルから街に出てもらうという、その両面からインバウンドとビジネス層を、どう街に流し込むかというものでございます。

案5といたしましては、川崎でしか、というところで、基本的には個人経営のお店というのは川崎でしか味わえないと思います。あとは、藤子ミュージアムや岡本太郎などの、川崎のいわゆる観光資源というところ。工場夜景などもそうです。そういったところの発信もしっかりしましょうね、というところです。

案6としては、産業観光の推進です。先ほどの人材獲得に向けたというところです。例えば市内の研究拠点とスーパーサイエンスハイスクールをどう結び付けるかなどをイメージして、取り組むというものです。

案7としては、若者向けにというところです。まずは認知されていないのではないかな。なかなか最初に来るきっかけがないのではないかな。遊びに行くという時に川崎は選択肢に上がらないよね、というのが、若者の委員から出てきました。そういったところに取り組む必要があるのではないかと、ブランディング的なイメージで案7をおいています。

案8といたしまして、データ分析とマーケティングの徹底というところです。我々の方でも、例年のインバウンド消費動向の分析を行っていますが、どのように回していくかという観点も含めて、このあたりを徹底していく必要があると思います。

検討部会では、案1から案8までお示しをさせていただいています。前回の部会では、おおむね方向性としては良いとなっていて、案1や案2をまず具体的に詰めていく必要があるという話になっています。体制面のお話を次回の部会では注力しながら、他の取り組みも議論して進めていくという流れになっております。

松本会長

フェーズ1で行われる取組ということでしょうか。

事務局担当職員

おっしゃる通りです。

松本会長

今回は、新しいものを作って取ってつけるのではなく、今ある川崎の魅力をきちんと

出していこう、それが認知されるように、それが魅力になるように、やっていきたいということですかね。

事務局担当職員

まさにそうです。新しく作っても嘘くさいものということになってしまいますので、本当に川崎の持つものをしっかりお届けするというようなコンセプトになってくるかなと思います。

松本会長

そうすると、いかに効果的にそれを出していくのかというところは体制の問題にもなりますね。

青木委員

観光資源について、より魅力的なものにするような話もぜひお願いします。

工場夜景は、小島新田まで行かないと船に乗れない。例えば旧東海道の六郷の渡しがあったところに船をつけてといったハード整備ができれば。国の管轄なので、市が関与できない部分もありますが、旧東海道は夜間に照明でライトアップされます。そこを歩くのは、今のところ東海道交流館に来るだけです。多摩川まで来る仕掛けはないんです。例えば、そこから船が発着すれば、川崎駅から歩いて船に乗り、工場夜景を楽しみ、また六郷のたもとに着いて、帰りをぶらぶら歩きながら、川崎の飲食・物販に繋がるような仕掛けができるということが大切だと思います。約3,000万円かけて、六郷橋の端から横浜の鶴見区、横浜との区界まで照明を整備していますが、歩く仕掛けがありません。合わせて人の流れができるような、環境整備というのもぜひやっていただきたいなと思います。

あとは大型バスの発着所・駐車場も必要です。簡単な話ではないと思いますが、市全体としてどうするのか、考えていただければと思います。観光は今、自動車産業に次ぐ産業ですよ。観光客が日本にもたらす経済的効果はそのように聞いています。そういうことからすると、少しでも川崎に観光で誘導するような仕掛けをお願いしたいなと思います。

萩原委員

大型観光バスの発着所は、本当に何年も前からお願いしているかわからないですが、市役所の中でたらいまわし、それはあっちだこっちだと。駅前整備が入っても、いくら言ってもふたを開けてみると、市バスとタクシーの場所とちょっとしたスペースとかで、絶対大型観光バスの場所がないですよ。そうすると、今もどんな小さなグループでも結構大型を使います。バス会社も、あまり小さいバスは持たず、大きなバスでまわしてくるので、大したことのない人数でも大型できます。そうすると、どこで降りてそれを見に行って、どこで拾って行くのかというのは、本当にどこでも大変です。要所要所で、ぜひそれは欲しいですよ。

青木委員

武蔵小杉は、ある程度整備はしたけれども、整備の途中の登戸駅の周辺は計画も組み込まれているか、わかりませんがそういったインフラ整備をしていただくことが望まれます。

萩原委員

要所要所にそれがあると、そこを起点にどこかに行かれて、また戻れるというように。それはいつもネックになることなので、ぜひ交通面も含めてお願いしたいなと思います。そうしないと観光が成立しなかったりもするので。

事務局担当職員

バスの駐車場に関しては、川崎市観光協会さんのホームページに今年から情報を掲載いただいています。既存のところしかないですが、それぞれタイムズの駐車場で、大師公園や富士見公園、等々力、生田緑地などです。

森担当課長

駐車場なのか停車場所なのか、それによっても議論が違うと思います。

萩原委員

そうですね。駐車場は、少し離れていても仕方がないと思いますが、お客さんが乗り降りする場所ですよね。本当に欲しいと思いますよね。

森担当課長

乗降ですね。乗降ができる場所は、一定程度川崎駅周辺にも本来はあります。ラチッタ デッラの奥にありますが、そこが少し遠いことや使いづらいというのはあるかもしれません。やはり川崎市内、土地もない場所なので、有効に使っていく必要があると思います。そういったところを、今までも観光協会の方で要望をいただいております。駐車場は少し遠くても、運転手がいけば良いと思いますので。

六郷の渡しに関しても、色々な議論があると思っています。六郷に船着き場を作っても、多摩川は喫水の関係でなかなか船を常時運航できないという課題があります。また、船着き場は平成12年頃に幸区が多摩川見晴らし公園で観光協会と夏の期間に半額ほど補助して運航していましたが、それもお客さんが入らずに終わってしまいました。経済労働局で相当なお金を使った事業でしたので、運航事業者や条件などの目星がつかないと、難しいのかと思っています。

萩原委員

お祭りの時は、人が来るんだけどね。

青木委員

六郷の渡しまつりも、結構人が来ますよね。

森担当課長

やはりイベントの時だけではなく常設的に人が来ないと意味がないと思っていますので、どこが運航するのかなども含めて考える必要があらうかと思います。

松本会長

ずっと今日お話を聞きまして、フェーズ1で大事にしてらっしゃることは、「プレーヤーをきちんと集めよう」ということだと思いました。それが一番大事ですね。

森担当課長

今までも記載がございましたが、今回大きく見出しとして作っていくのは、各地域のプレーヤーさんがいますが、その方々がしっかり活躍できる場が、私たちとしても把握できていなかったりしました。そういったものを固めて、地域ごとでなくてもよいです

が、プレーヤーを育てることによって、観光が盛り上がるのではないかという、ここを大事にしていきたいと思います。

松本会長

そうですね。そうしたことが、まず第一番目にあつて、それをやっていく。そこで、はっきりとこれを行うことができるぞ、というような目星がつけば、ハード整備をしましょう、あるいは、イベントを考えましょう、ということですね。まずフェーズ1は基礎でもう一回、一から川崎の観光を捉え直さなければならないと思います。そういうことなのかなと思います。

森担当課長

そうですね。既存でも、他都市に比べればまだまだですが、ある程度観光客がいらっしゃることは確かです。スポット、この駅周辺はある程度いるのかもしれませんが、場所を移せばなかなか観光客というのは難しいです。

松本会長

あるけれども、顕在化していないですね。潜在的にはあるはずですが、それをいかに引っ張り出していくかということが、まずは大事だと思います。お考えになっていることが分かった気がします。

森担当課長

少なくとも、この20年間観光振興計画を立てて、やってきた意味はあると思っています。それをさらに拡大していくというのが、今回の計画かなと思っています。

より市民を巻き込み、市民の方々を主体でやっていただくような取組を増やしていきたいと思っています。

青木委員

フェーズ1のターゲットにある川崎のありのままに関連して、4月4日金曜日に放送されるNHKのドキュメント72時間があります。川崎駅前の飲食店の3日間。まさに川崎の工場労働者が夜勤明けに朝一杯やって家に帰り、5時過ぎて工場が終わり、店に来ていました。今は若い女の子連れで来たりもするみたいですね。

森担当課長

繁盛していますよ。満席ですよ。あそこに本当は、外国人の方を連れて行きたいのですが、入れないです。私たちはこういった川崎ながらのお店というところを、しっかり紹介していこうと思っています。川崎らしい、川崎らしさ。

青木委員

ネットで調べると、若い女の子同士で来ていますよ。メニューは豊富ですよ。

森担当課長

インバウンドとしても外国人が多いようなところには、なかなか来たくないという話も伺っています。まだまだ川崎は、外国人で溢れているようなお店は少ないので。

松本会長

若井委員は何か要望はございますか。

若井委員

これだけのメンバーの方々が、きちんとフェーズを追って少しずつ作っていくとおっ

しゃってくださっているんで、きっと良いものになるのではないかと、とても期待感を持ちました。

一つ尖ったところを見せられると楽しいかなと、川崎らしさというところを引き立てられればなということを、一番に思いました。

松本会長

そうなんですよ。考えてらっしゃることに共感して、確かにそうだなと思いました。具体的に何を出してくるか、フェーズ1のところ、何かがあげられて、それが出来たという具体的なものは一体なんだろうか、というところをお聞きしたいなと思います。まだそこまで決まっていらないですか。

森担当課長

そうですね。そこまで確認はできていないです。

松本委員

無責任な言い方をさせていただくようですが、ぜひ楽しみながら作ってください。非常に限られた期間の中で、これだけのものを作って作ったら、なかなか楽しみながらとはいかないとは思いますが。

若井委員

江戸時代では、川崎は第一の東海道の宿場でしょうか。品川の次が川崎ですか。

青木委員

品川の次が川崎。そのあとが神奈川。品川から川崎が約10キロですから、川崎宿が約400年前にできるまでは、品川宿から神奈川宿まで宿場はありませんでした。400年前に川崎宿ができて、前後10キロ10キロくらいになりました。キロ数にすると。

若井委員

江戸から出て羽を伸ばしたい事案みたいなものの現代バージョンで、東京からたまにディープな川崎で夜を楽しみましょう、都会に住んでいる人が、今週末は川崎でいつもと違うところで飲んでみようと言って、日帰りにはなりますが、そういうものを発信できれば、新たな何かが見つかるかもしれないと思いました。

松本会長

それはいいですね。気取らなくて。川崎で。

若井委員

川崎って行ったことないけど、今川崎に行くのが流行っているみたいよ。夜とても面白いらしいよ。そんなことが出来たら、面白いかもしれないですね。「川の先を渡る」みたいなキャッチフレーズで。

松本会長

宍戸委員も萩原委員も、これから大変かと思いますが、ぜひよろしくお願いします。ご議論いただいて、良い案を作っていただきたいと思います。

森担当課長

この部会だけではなく、部会以外に有志の勉強会を最近は行っております。これだけでは、時間が足りないという方がいますので。

松本会長

有志の勉強会というのは、どういうものですか。

森担当課長

委員の方々が、別で集まる機会を作っていただいて、私たちもそこに参加させていただいております。

松本会長

皆さん、大変熱心に議論していただいているんですね。

森担当課長

部会の時は意見だけで1日が終わるという感じです。

松本会長

コンサルが入っていない良さかもしれないですね。大変でしょうけれど。

森担当課長

それを全て部会長が受け止めて、資料にするのがなかなか大変です。

松本会長

ということで、ぜひお任せをして、良い案を作っていただきたいと思います。基本的なことは理解いたしましたので、賛同いたしております。ぜひ、よろしくお願いしたいと思います。何か他にございますか。

もしよろしければ、時間がまいりましたので、本日これをもって閉会にしても、よろしいですか。それでは私の方から、事務局の方へお返しいたします。

森担当課長

松本会長ありがとうございました。長い時間ご議論いただき、ありがとうございました。本日の会議の議事録につきましては、事務局から後ほど確認をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以上を持ちまして、令和6年度の第一回川崎市観光振興計画推進委員会を閉会させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

一同

ありがとうございました。

以上